

31.30.29.28.

芳樹無人花自落 春山一路鳥空啼 (李華)
錦城絲管日粉々 半入江風半入雲 (杜甫)
月落烏啼霜滿天 江楓漁火對愁眠 (張繼)
晚來風起花如雪 飛入宮牆不見人 (劉禹錫)

F

別紙写真図版の書譜または十七帖を半紙に臨書しなさい。
4字く6字の配字を指示に従って書くこと、
右上に釈文を硬筆か毛筆細字で記入すること。
釈文は新字体、旧字体のいずれも可とする。

G

次の和歌を半紙に書きなさい。
漢字かな交じり文の書き方でなく、古典的なかな作品とする。
漢字 かなの変換は自由、変体(異体)がなを適宜使用すること。
構成・表現の効果を考えて適宜連綿すること。
和歌の作者名は書かない。落款は入れない

32.

大和には ^{やまと} 鳴きてかくらむ よぶこ鳥

33.

きさの中山 呼びぞ超^こゆなる (高市黒人)
かからむと かねて知りせば ^{おほ}大み船
はてしとまりに しめゆはましを (額田王)

34.

あふみの海 ^み ^{ゆふなみちどり} 夕浪千鳥 ^な 汝が鳴けば
心もしぬに いにしへ思ほゆ (柿本人麿)
※海は「うみ」と読む場合もある

35.

たかまどの 野辺の秋萩 いたづらに
咲きか散るらむ 見る人なしに (笠金村)

36.

み吉野の ^{さは} きさ山にまの 木ぬれには
ここだも騒^{さわ}ぐ 鳥の声かも (山部赤人)

37.

卯の花も いまだ咲かねば ほととぎす
佐保の山辺に 來^き鳴きとよもす (大伴家持)